星空の記憶

はく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星空の記憶

【コード】

N6379K

【作者名】

はく

【あらすじ】

ショートショートです。毎日がハッピーエンド。読む人の心を癒します。

無限に広がる光の洪水。

宇宙から地球への贈り物。

「タクちゃん、綺麗だね。また明日も見にこようね」

「もちろんだよ。ユイこそ忘れるなよ」

「その言葉、タクちゃんにそのままお返ししますわ」

「何だよ、その話し方は。オレは約束を忘れないぞ」

「うん、約束したからね」

「おう、まかせておけ」

それがユイを見たのが最後だった。

そっだ。

ユイは、翌日にこの町を去っていた。

「おい、タク。起きろよ。授業が始まるぞ」

「ヒロ……か」

「寝ぼけてるんじゃないぞ。次は実験棟での実習だぞ」

「やばい。ヒロ、走ろう」

「おう」

どうやら、オレは夢を見ていたようだ。

忘れていた記憶。

ユイ……か。

だが、オレにはその顔が思い出せなかった。

授業が始まる。

4人ずつのグループに別れての実験だ。

高校3年生の秋。

普通なら、受験勉強で忙しいはず。

オレの通う高校。

大学の付属校。

本人の希望があれば無条件で、誰でも付属大学へと進むことが出来る。

これは理事長の教育方針らしい。

受験勉強に費やす時間を本来の学ぶ時間へとするためだ。

オレとヒロは付属大学への進学が決まっている。

「なあ、タク。隣のクラスに転校生が来たらしいぞ。

転入試験で、ほぼ満点での入学だ。しかも、美人らしい」

「情報が早いな。ヒロの耳はロバの耳か」

「何言ってるんだよ。これは男たるものの使命だ」

「ヒロ、それは、お前の使命だと思うぞ」

「こら！、そのこの2人。授業に集中しなさい」

怒られてしまった。

「はい」

ヒロののん気な返事にオレは肩をすくめた。

授業終了のチャイムが鳴る。

「では、今日はここまで。皆、寄り道するんじゃないぞ」

オレとヒロには部活がある。

ヒロはバスケット部。

オレは・・・天文部だ。

運動は苦手な方ではない。

今でも体育会系のクラブから入部の誘いがある。

でも、オレは星が好きだ。

天文部。

部員は部長のオレを含めて6人。

人数は関係ない。

皆、星が好きなんだ。

今日・・・正確には今夜。

週に1度の天体観測がある。

天文部の活動は夜。

「はい、今夜は転校生で、新入部員を紹介しますね」

オレのクラスの担任でもあり、天文部の顧問でもある、女教師だ。

その明るさから、人気もあり、信頼も厚い。

「皆さん、はじめまして。・・・ユイです。星が大好きです。よろしくお願ひします」

これがヒロの言っていた転校生か。

確かに美人だ。

綺麗で可愛くもある。

「部長の・・・タクです。もしかして？」

「そうだよ。タクちゃん」

「ユイ？」

「タクちゃん、約束だったね」

「そうだったな」

星の光のシャワーが降って来た。

「綺麗だね」

「ああ、綺麗だ」

「私、星もタクちゃんも大好き」

「オレもだ」

「うん」

「オレも星とユイが大好きだ」

星野の記憶

「さし」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6379k/>

星空の記憶

2010年10月9日06時38分発行